

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	石川 信一	所属	同志社大学
研究集会等名称	社団法人日本心理学会 児童青年認知行動療法研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 9名 (うち認定心理士 2名) 非会員 33名 (うち認定心理士 3名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>児童青年認知行動療法研究会では、これまで年1回の研究会を定期的開催し、最新の研究についての発表や参加者同士の交流の場を設けてきた。今回は「思春期のパニック障害：アセスメントから治療まで」をテーマに、この領域において世界的リーダーである Tomas H. Ollendick 先生を講師に招き研究会を行った。当日は42名の参加者があり、開催地であった関西以外にも長野、愛知、広島、沖縄からの参加があった。</p> <p>研究会では児童青年期の認知行動療法に関する世界的権威である Virginia Polytechnic Institute and State University の Tomas H. Ollendick 先生を講師としてお招きし、思春期のパニック障害のアセスメントから治療に至る evidence-based な研究と実践の知見を詳細に報告していただいた。Ollendick 先生は2013年度の日本心理学会大会において招待講演者として来日しており、そのスケジュールの合間に本研究会への登壇を依頼したところ、快く引き受けていただけただけから企画が実現に至った。最先端の講演内容に対して参加者からも活発な質問やコメントが出され、過去の研究会にない極めて実りの大きいプログラムとなった。思春期のパニック障害に対するアセスメントや治療に関する研究は、日本においては心理学・医学領域も含めてほとんど行われておらず、このプログラムは心理学の分野からこのテーマについて有益な貢献が可能であることを知らしめるものであった。</p> <p>2013年に米国精神医学会の精神疾患診断マニュアルが改訂されたことに伴い、新しい診断基準 (DSM-5) に基づくアセスメントや治療に関する研究が世界的に求められている。本研究会が焦点を当てる児童期・青年期の認知行動療法分野においても、2013年以降の新たな臨床心理学の世界的潮流を踏まえた研究プロジェクトの企画を推し進める予定である。</p>		

2014年3月31日

日本心理学会研究会 2013年度会計報告書

研究会名称 社団法人日本心理学会児童青年認知行動療法研究会

研究会番号 研13015

助成金額 ¥20,000

年月日	項目	金額
2013年9月14日	資料整理アルバイト	¥1,800
2013年9月22日	講師・スタッフ弁当（12名）	¥15,120
2013年9月22日	スタッフ飲物（12名）	¥1,425
2013年9月22日	配付資料コピー代（50部）	¥2,000
	支出合計	¥20,345